



自称スパイの商売女を

ガクガク
女スパイ 60
調教 777 60.

ムダ毛丸出し羞恥調教

「鈴凛ある。ほ…本日はご指名
「ありがとうございます。…」
「いやあ、おじさんすっかり
気に入っちゃったよ、グフフ。」



（くうう…この好色オッサン達また来たあるか…。
まあ構わんある。こうなったら鈴凛の魅力で
今日こそ情報を聞き出してやるあるよ…。）

「おっと！おじさんがすべっちゃったお！！」
「あれ？！これなんだ？！サ！何すべのちやっただかっただろお？！」
鈴凛ちゃんくくく♪



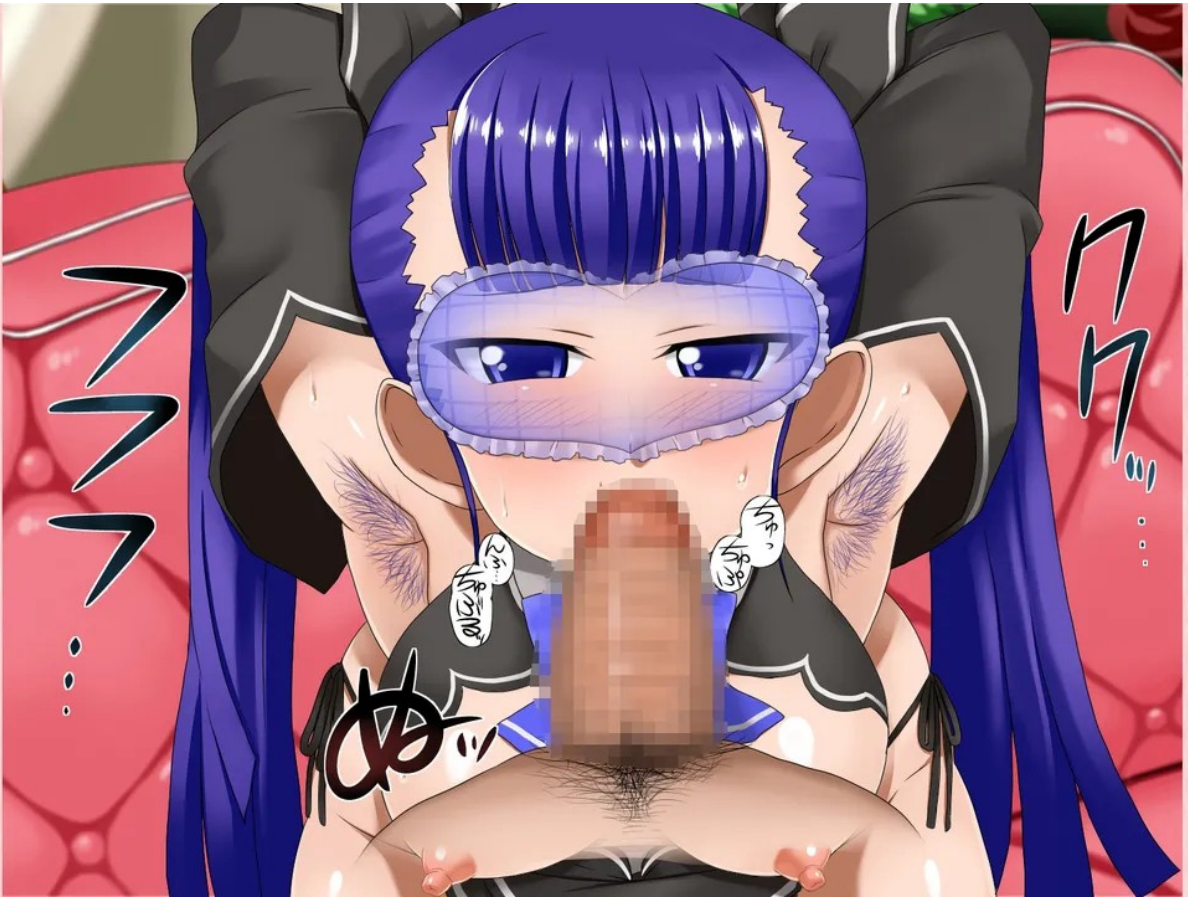
「サービス悪いともう指名してあげないよ。」
「そうそう。鈴凛ちゃんだつて議員先生のワシ達と
ご一緒したいたるお？」
「はい。先生達のこといっばい知りたいあるよ。」
（国家機密を聞き出すまでの我慢ある……。）

「じゃあ『おクチあくん』ゲームしよっか鈴凜ちゃん。」
「な、なんで目隠しするさあるか？」
「つべこべ言わず、さっさと口開けんか！」
「ほれほれ！」
「…解りましたある。」



「はははは、ほりゃいなくぞう！あううん！」
「あははは……な、なんか臭うある。」
「特注ソーセイシだからね。噛んじやだめだよ！」
「ぷくくくく。」

「むぐっ!!」
(な、何あるかこれは?ほんとにソーセージあるか?)
「おいしい肉汁が出てくるから、ロすほめて、ちゆうちゆうしてごらん。」



「先っぽペロペロも忘れずにね♪」
(な、なんかしよっぱいし、臭いし、
先が割れてるある...?)
「ま、まさかチンチンあるか!」

「ぶせむべううううううううう！」



「おっ！解っちゃった？鈴凛ちゃんスケベだねえ！」
 「それじゃあ、正解したか！鈴凛ちゃんにはご褒美に
 特注！セージの追加オーダーといくか！」
 「おっ！解っちゃった？鈴凛ちゃんスケベだねえ！」

「遠慮せんともっと喉の奥まで味あわんか！」
 「んぶっ! とっ! おえっ!」
 「あがつかえんっ! おえっ!」
 「後がつかえんっ! おえっ!」
 「あぐっ! 下ってるんだから、しっ! かりしゃぶれよ!」
 「エラチオの経験ないの?」
 「ひょっとして」



「まあ、よいではないか、これはこれでそそるわい!!」
 「ほれっ! 出すぞ! くぶぶっ!」
 「んぐううううううううう!!」
 「ははは、鼻から逆流してるぞ! 下手くそ!」
 「そのマヌケ面にぶっかけてやるよ!!」

「鈴凜ちゃんオンステージ♪」
「な、なに上がってきてるあるか？」
「せっかくカラオケリクエストしてるんだからさあ、
さっさと歌って踊れよ！」



「こ、こんな格好で出来ないがある…。」
「ははは、今は、今更何恥すかないが…。」
「おじさん達が手伝ってあげようかしら？」

「ほらほらもうミュージック始まってよ〜！」
「ど、ドラ○ン、レック、ディ〜♪ううっ……。」
「よっ！いいぞ〜♪もっ乳揺らせ！乳！」
「サーピスたりねえぞ！こっちも見せろ！ほらっ！」



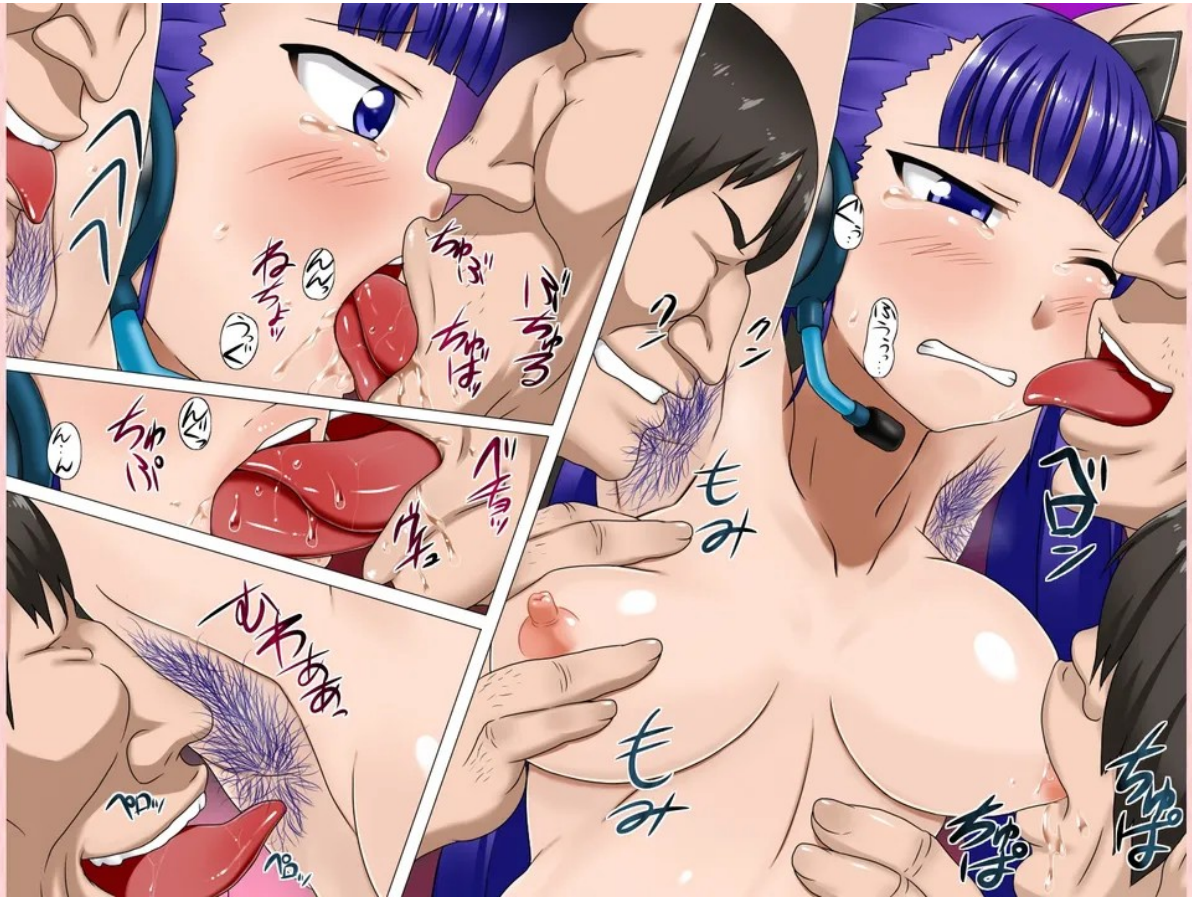
「うひゃいっ!! な、ななな、何するあるか!？」
「隠すなよ! ひひひ、毛もじゃもじゃマン」丸出し〜♪
「鈴凜ちゃん! ひひひ、毛もじゃもじゃマン」丸出し〜♪

「もう全部脱いじまえよ！
ストリップ！ほれストリップ！
「や、やめるある！ひいいいいい！
「ははははははっ！いいねっ♪
鈴凛ちゃんすっぽんぽんってかっさ。」



「ほらまだ曲続いでるぞ！裸踊り続けろよ！」
「くうう...こ、こんなのカラオケじゃないあるっ！
や、やってられないある！」

「ほくら、鈴凜ちゃん、もつと大きく口開けて歌ってよろ。」
「ちよっ！近すぎあるっ！」
「ひゃん！どこ舐めてるあるかあっ！」



「ハハハハ、ダンスで汗かいちゃったのかなあ？」
「ワキの下じっとり湿ってるよ。」
「おじさんとキスしよっか！キス！」
「んぐむう！んッ！んむう！んむう！」
「はあ、はあ、鈴凜ちゃんのワキ汗とっても美味しいよ。」

「上も下もこんなにもじゃもじゃにして、
「けしからんなあ、まったく♪」
「あっ!ふああっ!んんう♥
「そ、そっちはダメあるうっすっす!」



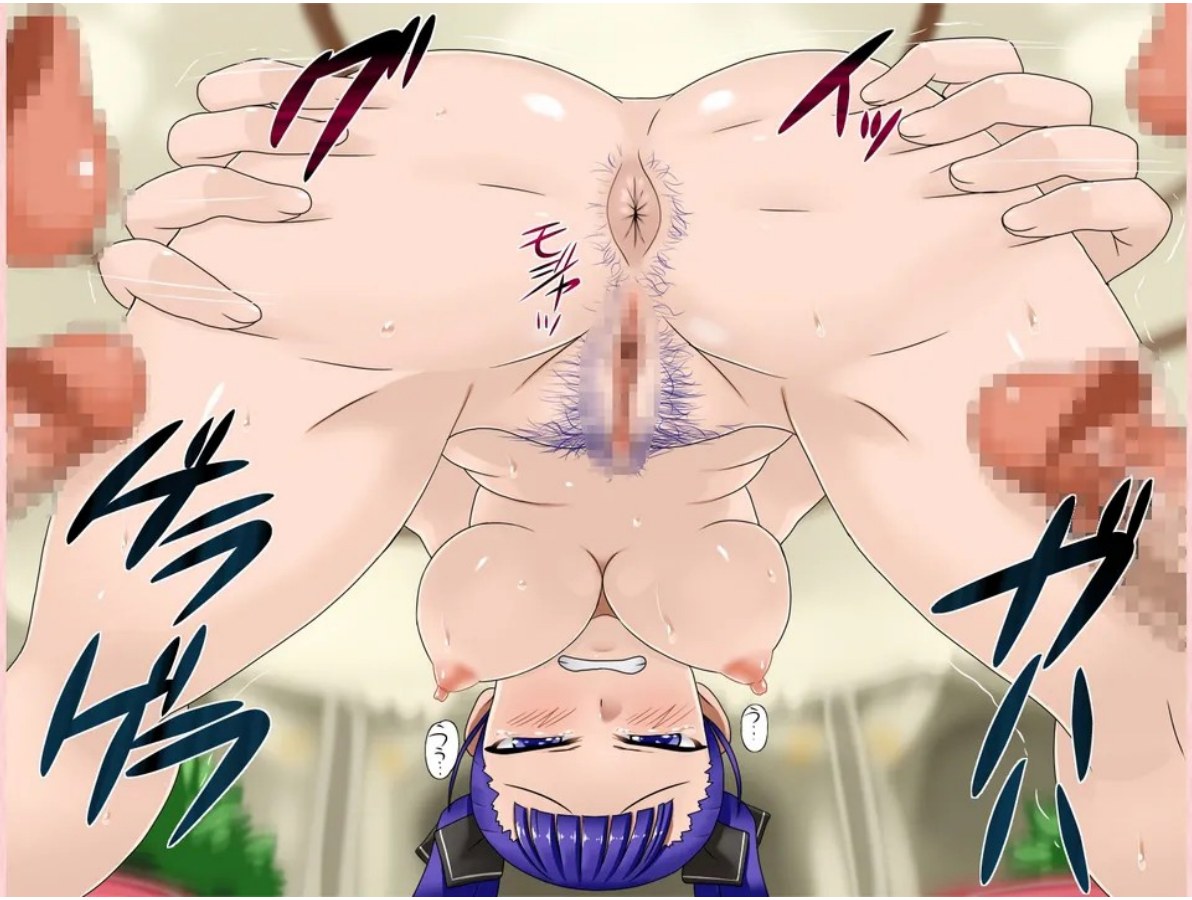
「おいおい、そこは
『オマンコ』ポーパーでこめんなさいある〜』だろ?」
「ひひひっ!脱毛手伝ってやるよ!」
「ひぎい!痛っ!引っ張らないで下さいあるう。」

「鈴凜ちゃんはワキ毛だけじゃなくて、マン毛までボーボーだね。クククッ！」
「これケツまで続いそうだよな。フヒヒッ！」
「こりゃあクソ穴の周りケツ毛だらけだな。」



「そ、そんなことないあるっ！」
「じゃあケツ毛チェックしてやるよ！
自分で尻肉広げてケツの穴見せろ。ほら！」

「こ、これでいいあるか？」
「ははははははっ！見ろよこれ！
やつばケツ毛生えてるよ！」
「ぶはははははっ！そんな汚いケツしてちゃ駄目だよ」
鈴凜ちゃん。そんなんじゃ彼氏出来ないよ！」

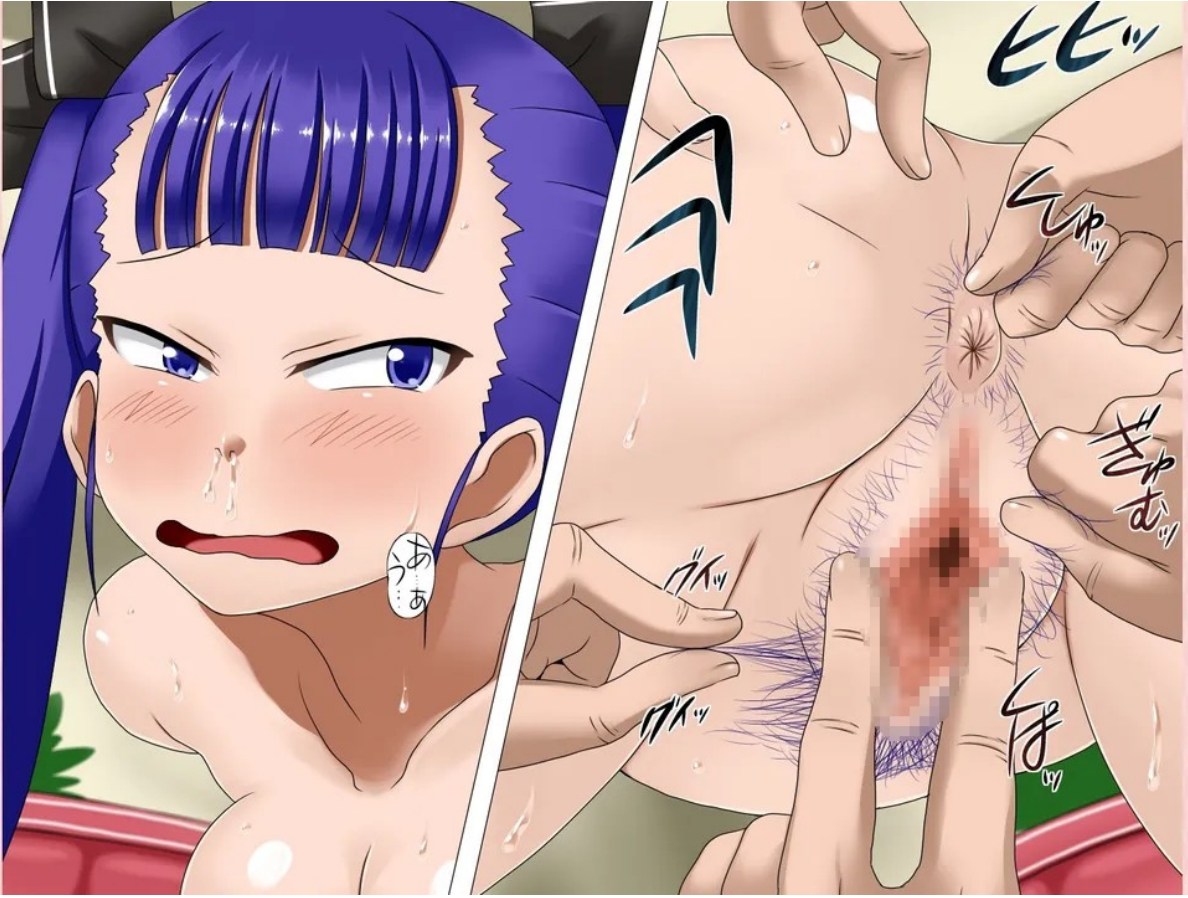


ケツ毛

ガキ

「くうう！は、生えてないあるっ！
鈴凜のお尻はそんな汚くないね！」
「おっ！ムキになっちゃって可愛いなええ！
ケツ毛ピツシリ鈴凜ちゃん♪」

「鈴凜ちゃん。今おじさんが引っ張ってる毛は
「どの毛かなあ？」
「ヒントはケツ穴の周りに生えてる毛だよ！」



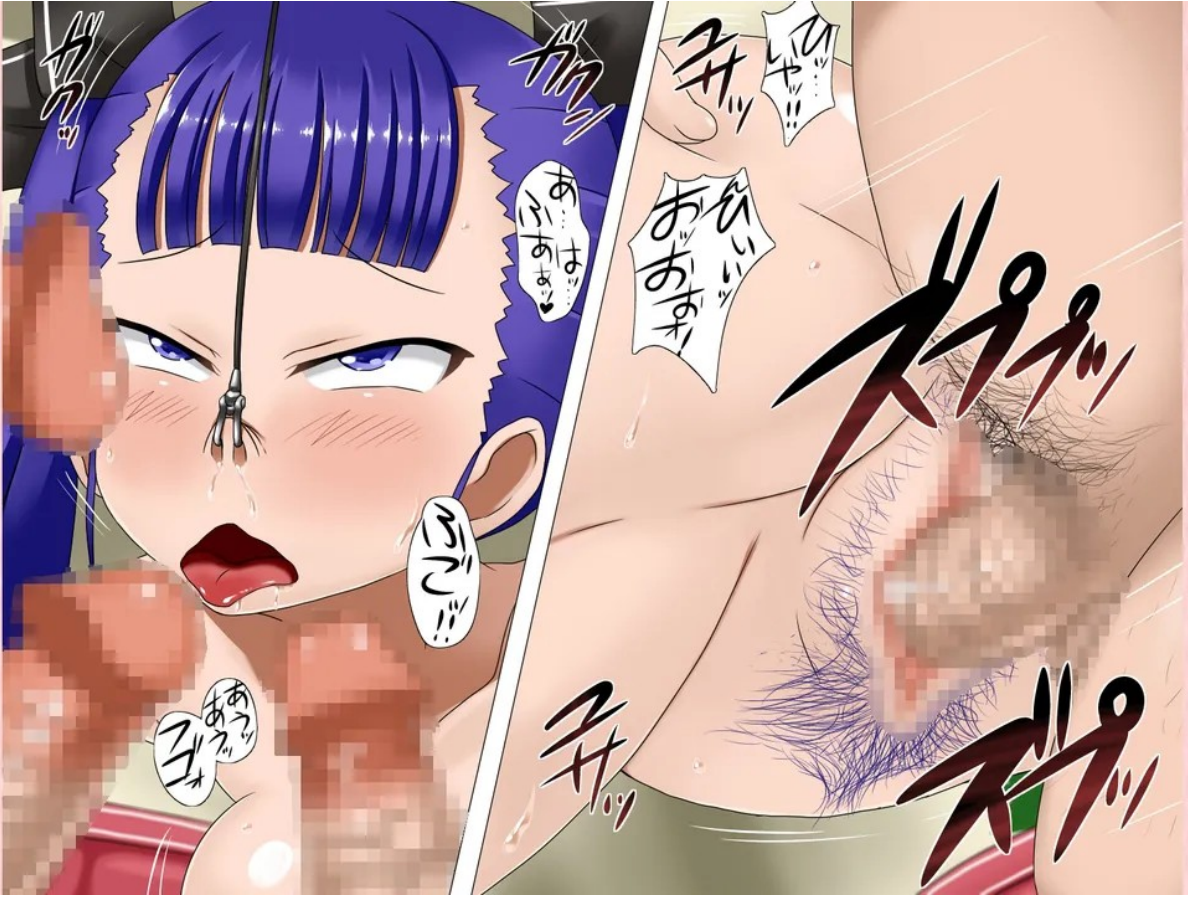
「し、知らんあるっ！言いたくないあるっ！」
「あれえ？そんな態度とるの？」
「こりゃあお仕置きしないとダメだねえ…。ククク。」

「ケツ毛豚の分際で口答えてんじゃねえぞ！
オラツツ！」
「いぎっ！ひぎゃいっ！」
「そんなに恥ずかしいなら、
ワシらの手で脱毛してやろうじゃないか！ほれっ！」



「んいいいだあっ！ひいいい！
ごめんなさいあるっ！抜かないで下さいあるう！」
「ああ？何をだあ？」
「鈴凜のケツ毛とマン毛ですう！くひいー！」

「そんな毛豚にお似合いの顔にしてやるよっ！」
「それら毛マンコに肉棒のプレゼントだ！」



「ふがああ？」
「ははははははっ！」
「美人の顔を歪ませるのは興奮しますなあ。」

「んあっ！あっ！あっ！ひきい！」
「おっ！出る出る！出る出る！」
「こんなに出的のは久しぶりだわい。」



「んあっ！あっ！あっ！ひきい！」
「おっ！出る出る！出る出る！」
「こんなに出的のは久しぶりだわい。」

「出た。ケツ毛マンコからも溢れておるわい。」
「あふした。ケツ毛マンコからも溢れておるわい。」
「こんだけ出した。ケツ毛マンコからも溢れておるわい。」
「どこれだ！出したら、孕ちゃんに種付けさせてやるぞ。」



「はんおんポ汁で満タンにしてやるぞッ！」
「ぶはぶおんポ汁で満タンにしてやるぞッ！」
「ぶはぶおんポ汁で満タンにしてやるぞッ！」
「ぶはぶおんポ汁で満タンにしてやるぞッ！」

「鈴凛ちゃん今日もいっぱいハメハメしようね♪」
「うううう…もう許してくださいある…。」
「このままじゃ、鈴凛ホントに妊娠してしまうね。」
「何言ってるの？そんなことじゃ
立派なスパイになれないよ。」



「それにもうとっくに手遅れだと思っけどなあ…。」
「ふひひッ！」
「ワキ毛もさらに濃くなっちゃって、
下品な落書きがとっつてもよく似合ってるよ。」
「ひひひとある…。」
「もう剃らせてくださいある…。」

「うははッ！出る出るッ！」
 「十年は若返った気分だよ！」
 「おやおお！おすよっ。こっちは向いてる。」
 「んほあら！んっ！」



「今日もいや肉便器つぷりだねえ♪」
 「鈴凛ちゃん！おはっ！その外に出してくださいあるう
 困るわいっ！おはっ！その外に出してくださいあるう
 「あぶっ！んっ！おはっ！その外に出してくださいあるう
 はひい！」

「ほら、撮るよ♪はいチーズ！」
「はひい！ひ…ひ…ひ…すある……。」



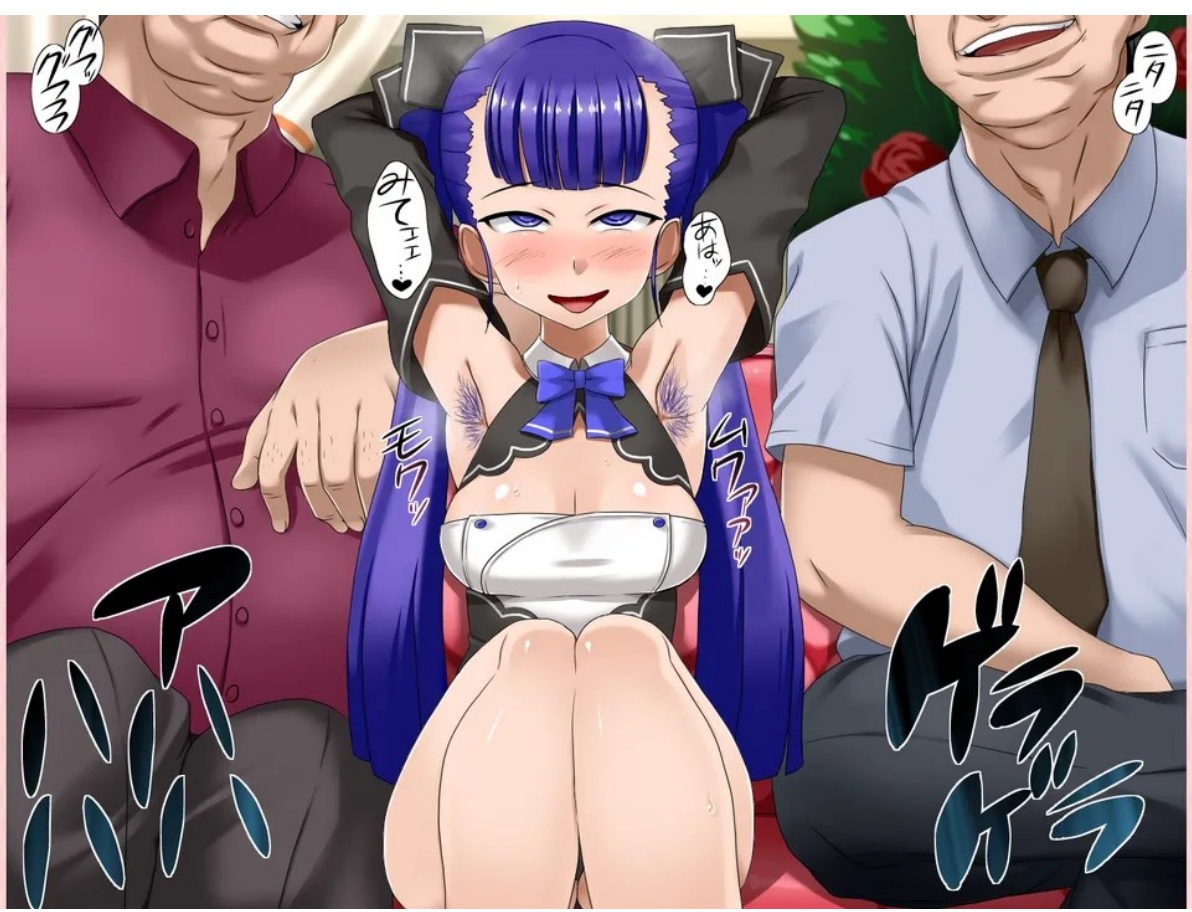
「すっかりお腹が大きくなっちゃねえ、鈴凜ちゃん。」
「ミルくまで出るよさうだねえ。グヒッ！」
「もっすっかりお母さんだねえ、楽しみだね♪」
「生まれてくる子がだれの子か、楽しみだね♪」

「今晚もたっぷり楽しめそうだわい。グヒヒヒヒッ！」



「フッフッフッ：何だか体が熱くなってきたわ！
「おっほほほ！リフレックスもクッパッパッ！」
「そろそろいいもクッパッパッ！」
ETS（エロいっつもクッパッパッ！）
「おっほほほ！リフレックスもクッパッパッ！」
「そろそろいいもクッパッパッ！」
ETS（エロいっつもクッパッパッ！）
「おっほほほ！リフレックスもクッパッパッ！」
「そろそろいいもクッパッパッ！」
ETS（エロいっつもクッパッパッ！）」

「ほおおろく。相変わらすメス臭いワキマンコだわい。」
「おじさんチンポ勃ってきちゃったよおろく。ヒヒヒ。」
「この整った顔立ちとのギャップがたまりませんなあ。」
△フッフッフッ!



「鈴凛ちゃん、ワキマンコ丸出し行ってみよおか。」
「あはあ…ワキマンコ」注文
「ありがとうございますあるう………」
「ほらっ、見てえ見てえ………」
♥

「おっ！Vの字開脚ですなっ！」
「ぎゃははは時はこの淫売じゃわい！」
「これで酔った時のことは忘れておるのだから！」
「こんな便利な薬はないわ！ガハハハハハハッ！」



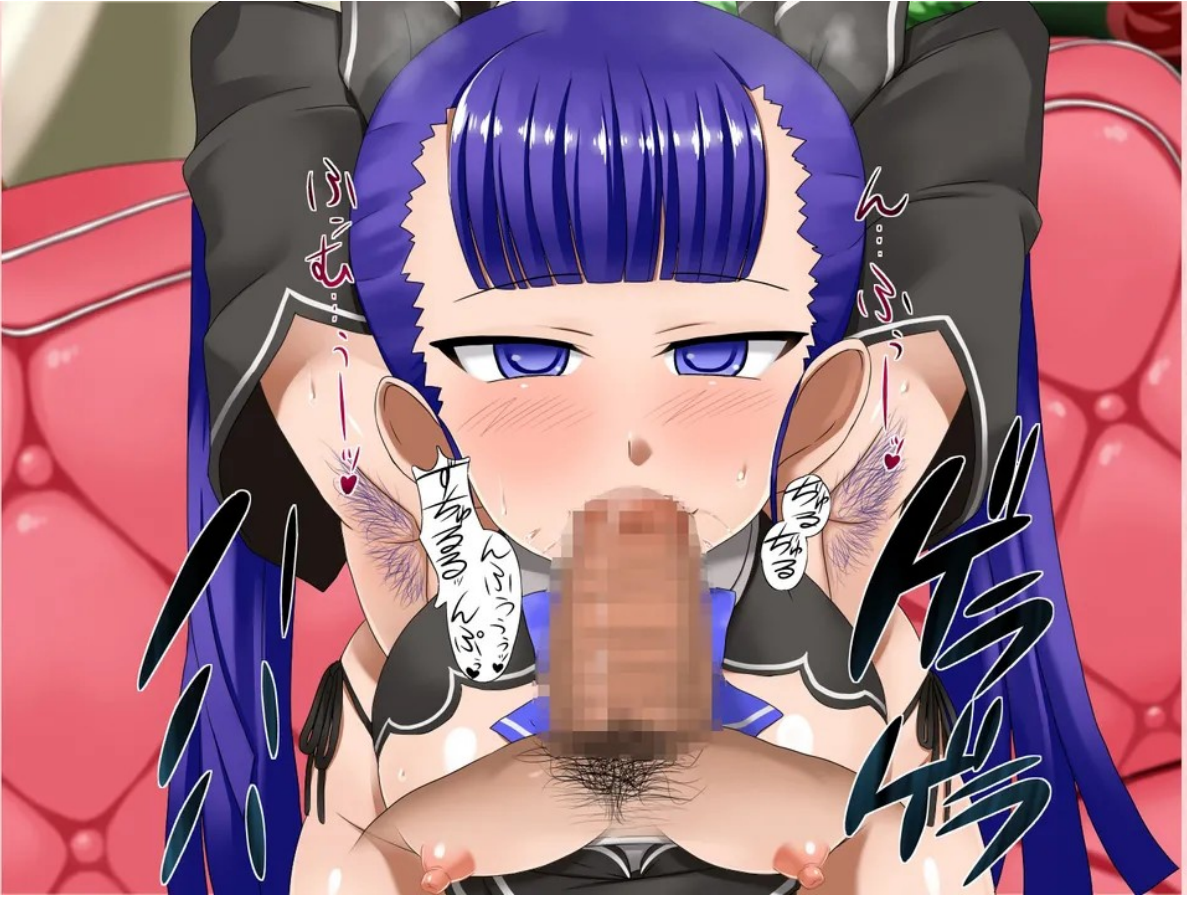
「ワキマンコだけじゃなくて、
こっちのオマンコも見て欲しいの
鈴凛のオマンコもじゃハミ毛ある
たっぶり視姦してくださいうっ」
「♡♡♡♡♡」

「それじゃあ、鈴凛ちゃんの大好きな
『チンポあ〜ん』をオーダーしてあげな
おチンポッ! 早くおチンポちようだいッ
あ〜ん♥」



「ぐふっ! そんなにチンポが欲しいか
このメス豚め!」
「ヨダしまで垂らしおって、ほれっ!
もっとおねだりせんかっ!」

「はッはッ…♡ちんぽお♡んむっ…ん
「おほっ！こりゃたまらん！」



「鈴凜ちゃん、チンポおいしいっ？」
「んふっ♡おいしあるっ♡」
「鈴凜はおじさん達のうさちゃんポ大好きよ♡」

「鈴凜の変態ダンスショーの始まりあるよっ♡
いっばいおちんぽ全部見せちゃうんだから♡
フツツ♡」



「よっ！待ってました！
「いいぞ！待ってました！
「マイク！おチンポに似合ってるよ、鈴凜ちゃん。」

「変態! エプロン姿はどうかしら? フジフヤないか。」



「あはっ♥結構結構! その格好で、おじさんのチンポ料理してもらいたいな。」

「この様子じゃ、チンポ入れるとどうなるか
楽しみじゃわい！」
「次はワシらのチンポマイクで歌わせてやるとするか。」



「んおおおッ♥チンポバイヴッ！イポバイヴッ♥
すごいあるう♥
鈴凛のバウにうねうね腰振りダンス見てえッ♥
チンポみたいうねうね腰振りあるよ♥んああっ♥」

「そんなスケベな娘は、
ワキ毛抜いてイジメちゃうぞ」
「あひっ！ワキ毛抜かれながら
またイっちやうあるうさ」
「♡」



「ふあっ！あんっ♡オマンコ気持ちいいあるう♡
鈴凜のムダ毛くさマンもっとな弄って欲しいあるう♡
「おほっ！潮吹きまでしょおって、
しよっの！潮吹きまでしょおって、
しょうのない淫売じゃわい！」

「そろそろ鈴凜のマンコもある♡」
「オチンポください」
「ハハハハっ！オマンコだけでいいのかなあ？」



「下変態で淫乱な鈴凜ちゃんはおもちゃにも欲しいんじゃないか？」
「どこにもオチンポ欲しくないから、おじさん達解らないなあ。」

「仕方ないなあ。またおじさん達が
お手入れしてあげるよ。」
「ちょっと痛いかもしれないけどねえ。ウヒヒッ！」



「またこんなにもシヤモシヤにしちゃって、
しようがないメス豚だねえ♪」
「ごめんないあるっ♪おじさまあ♡
鈴凜はケツ穴の手入れも出来ないバカスパイなお♡」

「はひくそ！そらあ！
痛くていん！いいあ！
マン毛抜かれたいっあ
ちゅうあるう」



「ヒヒヒッ！こんなので感じてなんて、
鈴凛ちゃんはどうしようもない変態だねえ。」
「ひんっ！そのおしよきさつていっちやう
変態はパイツあるよきさつていっちやう」

「そろそろ、メス豚！餌の時間だぞ〜！」
「フゴォン♥チンポいっばいあるう〜」
「臭チンポもっとな臭がせて欲しいあるう〜」



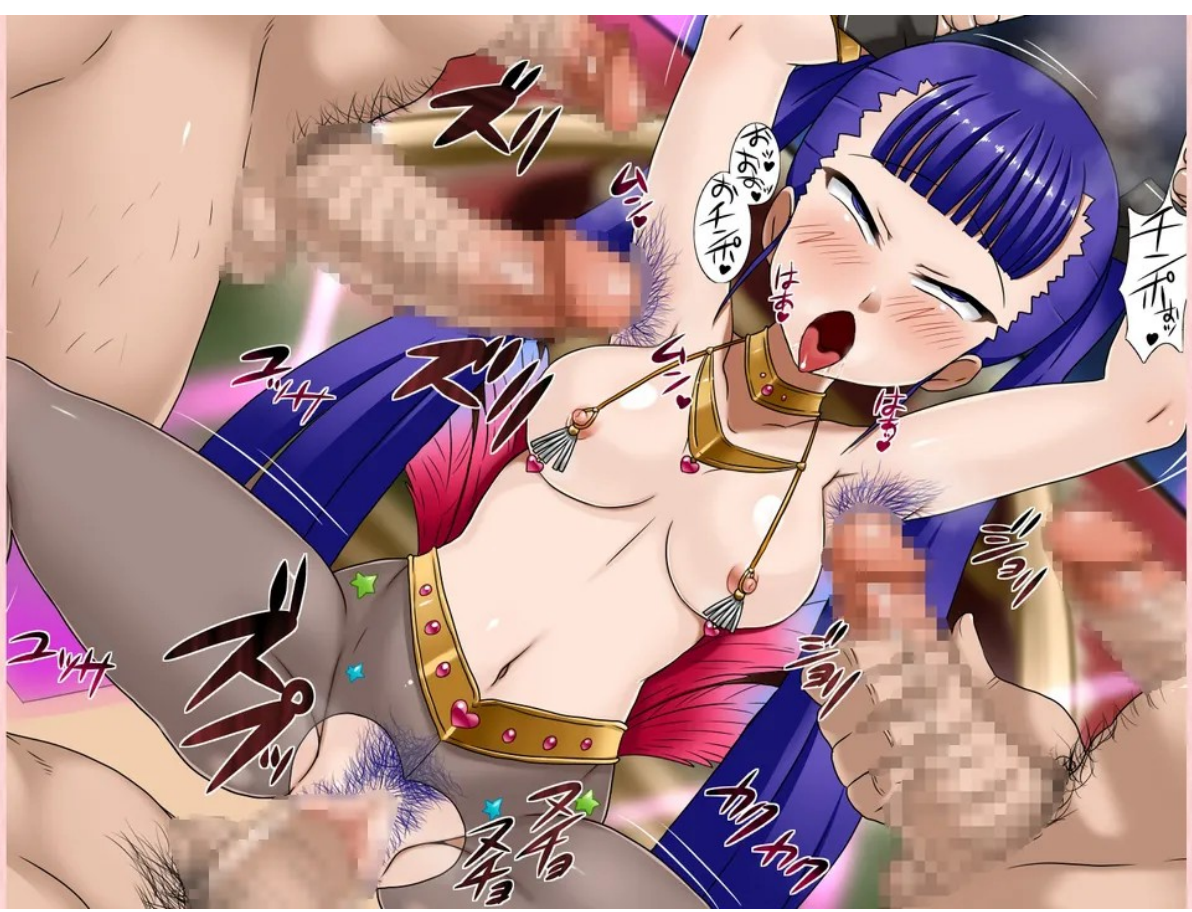
「ほんほらっ！おお待ちかねのチンポだよ〜！」
「チンポのお待ちかねのチンポだよ〜！」
「鼻フックも付けようね〜♪」

「ぶひい〜ん♥もっとお♥」
「はは、まだワシらの重要機密が欲しいのか？」
「いじきたないスケベ豚スパイめっ！」
「もっくとケツ振っておねだりせんかっ！」



「ぶひい〜ん♥もっとお♥」
「はは、まだワシらの重要機密が欲しいのか？」
「いじきたないスケベ豚スパイめっ！」
「もっくとケツ振っておねだりせんかっ！」

「今宵も鈴凜の変態サンバショーを
いっばい楽しむといね♥」
「おっ! パカッ! ほくほくいいね。」
「鈴凜ちゃんによく似合ってるよ。」
「へへへ、おじさん興奮してきちゃったなあ。」



「チンポ、オーレあるう。」
「ははは、そんなにされたらおじさん
腰砕けちゃうよ。」

「おチンポにもサービュスしちゃうあるよ♥
ん〜チユツ♥チユツ♥」
「ぐんぐん。鈴凜ちゃんはおチンポ好きなのかな〜？」
おじさんのおチンポ好きなのかな〜？」



「だいしゆきあるよ♥鈴凜はおチンポなしでは
生きられないあるよ。フフフッ♥
ワキマンコにもおチンポハメしてくださいある♥
がはははッ!とんだ全身マンコ娘だな!」

「ぶほお！ひんぼ汁きたあるう
じゅほっ！じゅるじゅる
「おほお！こりゃたまるん！なんて淫乱な舌づかいだ。
一滴残らず絞り出されそうだわい！」



「はあ、はあ、鈴凛ちゃんのワキマンコ最高だよ。」
「んぶあ♥ワキマンコにもザーメンいっぱいあるう♥
体中オナホになっただみたいあるう♥フフフッ」

「あへえ♥チンポサンバ止まないあるう♥
まんこオッ♥あッ♥んはあッ♥あッ♥
「こらこら、激しすぎるよ鈴凛ちゃん。くふふ。」



「あひいいいいいいいッ♥チンポきたあるう♥
「二穴ハメ最高あるうッ♥
「ケツ穴でも喜ぶなんて、
どうしようもないスケベ豚だねえ。」

「んはあ♥ザーメン嬉しいあるう♥フフフッ
もつと、もつとザーメン欲しいあるう♥
「じゃあオマンコサンバもつとおじさんと踊ろうね。
ムフフフフ。」
「はいあるう♥あっ♥あっ♥はんっ♥んんッ♥」



「んはあ♥ザーメン嬉しいあるう♥フフフッ
もつと、もつとザーメン欲しいあるう♥
「じゃあオマンコサンバもつとおじさんと踊ろうね。
ムフフフフ。」
「はいあるう♥あっ♥あっ♥はんっ♥んんッ♥」

「あへえ♥またイッちゃうあるう〜
んほおおおおおおおお〜♥」
「はは、イキつばおしだな。」
「どれ、今度はワシがハメてやろう。」



「んあぁ♥おじさまおチンポいっばいで、
鈴凛しあわせあるう〜♥
朝までおチンポカーニバルあるよ♥フッフッ」

「もう薬を使わなくてもこの有様ですからな、ヒヒヒ！」
「鈴凛おじさまの子供いっばい産んじゃうあるよ♥」
「これからも指名お願ひしますあるう〜♥」



「あひい！またイッチャうあるう♥」
「ほらほら！イク時はピースしなきゃ！」
「がははは！小便まで垂れ流しておって、
頭もマンコも緩みきっておるな。」